



僕は日本で25年選手をやっていますが、若い頃には安い給料で働き使われました。25年の恨みをもとめて晴らしたいですね。師匠の小鹿に勝つことが僕の究極の恩返しです。小鹿のモチベーションの源になっているベルトを奪ってやろうと思えます。残念ながら小鹿は1月かぎりまで終わりますよ(笑)。

小林選手はアブドーラ・ザ・ブッチャー氏の日本人唯一の直弟子だそうです。ブッチャーさんが1999年に大日本プロレスに所属して以降2年間、付き人をやりました。付き人のなり手がなかったし、僕はその時点で3年ほどレスラーとしての経験があったので「オマエがやれ！」と感心しました。昨年2月に日本でブッチャーさんの引退セレモニーがあって、久しぶりに会ったのですが、僕のことを覚えてくれていたので嬉しかったですね。今のレスラーはみんなスマートで、僕みたいな体型で暴れる奴はあまりいませんが、舞台裏でいろいろ話をしたときには「オマエは地を貫け！」とお墨付きをいただきました。昨年12月に自身5回目のBJW認定デスマッチヘビー級王座に輝きましたね。蛍光灯デスマッチだったんですが、日本でデスマッチのベルトはこれ1つしかありませんから、僕は日本のデスマッチ王です。1月19日に星野勘九郎選手とタッグを組んでシマ重野グループ小鹿組と激突しますが、大日本プロレスの小鹿会長とはまさしく師弟対決となります。ベルトを懸けて小鹿と戦うのは初めてです。さっきもある人から「小鹿とやる時は軽く殴るのか？」と聞かれましたが、思切りに殴るに決まってるじゃありませんか(笑)。僕からしたら嫌な上司ですし、公衆の面前で上司を殴れる仕事はほかにないでしょ(笑)。

アブドーラ・小林選手にインタビュー

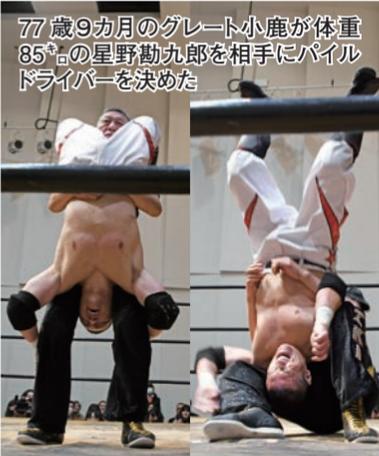


タイトルマッチを目前に控えてイケメンマッチョの河上隆一選手(左)に気合を入れるアブドーラ・小林選手(右)

新潟プロレスが2020年始動
今年初の大会はシマ重野



予告どおり大日本プロレスの「上司」ことグレート小鹿(左)とガチンコで戦うアブドーラ・小林(右)



77歳9カ月のグレート小鹿が体重85kgの星野勘九郎を相手にパイロドライバーを決めた



必死の形相でスリーカウントを奪っていくシマ重野



シングル王者のビッグ・THE良寛は河上隆一(大日本プロレス)に敗れ、タイトルを失った



ベルトを防衛したシマ重野・グレート小鹿組。中央は新潟プロレスアドバイザーの関博之氏(元新潟経営大学学長・医学博士)



第10代シングル王者となった河上。またしてもベルトがアドバイザーの関博之氏(元新潟経営大学学長・医学博士)に出る事態に



後列左から前田誠、鈴木敬寛、シマ重野、ビッグ・THE良寛の各選手。前列左から平野稜、須貝清彦の各練習生

グレート小鹿組が
4度目のタッグ王座防衛



シングル王者の良寛(右)と前王者の前田(左)もスパーリングで対戦した



重野(右)からバックを奪う鈴木(左)。昨年デビューした鈴木は中央大レスリング部出身



鈴木(右)にヘッドロックを決める重野(左)

方はどうなるのか？ 今年初の大会ではタッグ王者のシマ重野・グレート小鹿組が大日本プロレスのアブドーラ・小林・星野勘九郎組、セミアイナルはシングル王者のビッグ・THE・良寛vs河上隆一のダブルタイトルマッチだ。

タッグ王者の重野・小鹿組は小林・星野組が仕掛ける場外乱闘をしのいだ末に、重野が星野を相手にドライバー(脳天杭打ち)からの片エビ固めでスリーカウントを奪い、4度目のタイトル防衛を果たした。

一方、シングル王者の良寛は全日本プロレス元アジアタッグ王者の河上を相手に善戦したが、死闘の末に強烈な投げ技を食らって敗れた。これによりシングル王者のベルトは再び他団体に流出してしまった。

そして決戦当日。「新潟プロレス×大日本プロレス提携6周年記念大会」が1月19日、新潟市西川多目的ホールで開催された。

メインはいくまでもなくタッグ王者のシマ重野・グレート小鹿組vsアブドーラ・小林・星野勘九郎組、セミアイナルはシングル王者のビッグ・THE・良寛vs河上隆一のダブルタイトルマッチだ。

なお本誌記者は後日、試合を目前に控えた挑戦者チームのアブドーラ・小林選手を直撃取材。ベルト奪取に向けた意気込みなどについて聞いた。

地元プロレス団体「新潟プロレス」は1月6日、新潟市東区大形本町の道場で新春稽古始めを行った。

代表のシマ重野選手をはじめ、ビッグ・THE・良寛選手、前田誠選手ら看板レスラーはもとより、昨年デビューした鈴木敬寛選手、さらにアマチュアの練習生らも参加。リング上で本番さながらの公開スパーリングを披露した。

振り返れば、新潟プロレスにとって昨年はずっと激動の一年だった。1月にはシマ重野が大日本プロレス会長のグレート小鹿から、自身の敗戦により5カ月にわたって流出させてしまっていたシングル王者のベルトを奪還。

しかし試合終了直後、重野から小鹿にまさかのタッグ結成の申し出があり、小鹿がこれを快諾。4月の大会で二人は初代タッグ王座に輝いた。

それ以降、重野・小鹿組は順調に防衛を重ねたが、その一方で重野は9月、シングル王座を防衛すべく同門の前田誠と対戦。重野は不覚にも一瞬の隙を突いてスリーカウントを奪いに行った前田に敗れてしまう。

そして新王者の前田は11月の大会でビッグ・THE・良寛に敗戦。シングル王者戦線はまさしく戦国時代の様相を呈している。

さて、2020年の王座争いの行